

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	23	高知北	高等学校	課程	通
------	----	-----	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	様々な生活スタイルや学習のニーズを持つ生徒に対応し、主体性や社会性を育成するとともに、生徒一人一人の多様な進路実現を図る。 生徒の多様な背景やニーズに応じ、生徒が安心して自分のペースで目標に向かってチャレンジできる環境のもとで主体的に取り組む力を養い、社会的に自立した人材を育成する。
	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○ 高校を卒業したいという強い意志をもった生徒を募集します。 ○ 自分らしく学び、高校生活を送ることで成長したいという思いをもった生徒を募集します。 ○ これまでの自分と違う新しいことにチャレンジしたいと願う生徒を求めています。 ○ 多様な背景をもった一人一人の違いを認め、ともに成長しようとする生徒を求めています。		【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○ 共通講座・特別講座を受講することで学びの幅を広げていきます。 ○ 高卒認定試験等を活用することで、単位認定が可能となります。 ○ ピアサポーター(高知大学生)の活用により、生徒の不安の解消や学習支援を実施します。 ○ ハートフルドア事業を活用し、教育・医療・福祉の視点から生徒の成長を支援します。 ○ 生徒会活動(リーダー研修)や特別活動等を推進し、生徒自ら主体的に考え、判断し、行動できる場を設定します。
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○ 高校を卒業したいという強い意志をもった生徒を募集します。 ○ 自分らしく学び、高校生活を送ることで成長したいという思いをもった生徒を募集します。 ○ これまでの自分と違う新しいことにチャレンジしたいと願う生徒を求めています。 ○ 多様な背景をもった一人一人の違いを認め、ともに成長しようとする生徒を求めています。	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○ 高校を卒業したいという強い意志をもった生徒を募集します。 ○ 自分らしく学び、高校生活を送ることで成長したいという思いをもった生徒を募集します。 ○ これまでの自分と違う新しいことにチャレンジしたいと願う生徒を求めています。 ○ 多様な背景をもった一人一人の違いを認め、ともに成長しようとする生徒を求めています。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○ 共通講座・特別講座を受講することで学びの幅を広げていきます。 ○ 高卒認定試験等を活用することで、単位認定が可能となります。 ○ ピアサポーター(高知大学生)の活用により、生徒の不安の解消や学習支援を実施します。 ○ ハートフルドア事業を活用し、教育・医療・福祉の視点から生徒の成長を支援します。 ○ 生徒会活動(リーダー研修)や特別活動等を推進し、生徒自ら主体的に考え、判断し、行動できる場を設定します。
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○ 他者の生き方を認め、自分自身の存在を前向きにとらえようとする心を育てます。 ○ 社会で自立して生きるために必要となる基礎学力を育成します。 ○ 社会生活に必要な社会人としての基礎力・社会性・コミュニケーション力を育てます。 ○ 最後まであきらめず、チャレンジする気持ちを育てます。		

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 B 】	・学力は個々の差があり、サポートも大変だと思う。できている子、やろうとする子が退屈にならず、やる気を失うことがない環境づくりをしてもらいたい。
【社会性の育成】 評価 【 B 】	・高知県オリジナルアンケート結果では、「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒の割合が増加するなど、取組の成果が窺える。地域と連携した活動や学校行事等では、他者との関わり合いを意図的に位置付け、生徒の社会性育成を育む取組の充実を図っている。
【チーム学校】 評価 【 A 】	・あらゆる生徒に対して進路保障を最優先に考え、学校が一体となって取り組んでいる様子が伝わってくる。 ・卒業後、社会で自立できる力を身に付けられる学校生活であることを願っている。生徒に寄り添ってくれる先生方には保護者の一人として感謝している。

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	○授業外学習時間の増加 ほとんど勉強しない60%以下(令和6年度第2回66%) ○将来のための勉強をしている生徒の増加 65%以上(令和6年度第2回60%)	○単位修得のための必要な情報を北高通信等で知らせ、レポートに取り組みさせる。 ○面談等で目標を早期に設定する	A ○ほとんど勉強しない30%(令和6年度第1回66%) ○将来のための勉強をしている生徒85.3%(令和6年度第1回60%)	○「すぐーる」や「北高通信」等を利用して必要な情報を生徒に知らせ、継続して学習に取り組ませる。	A ○ほとんど勉強しない生徒18.2%(令和6年度第2回6.6%) ○将来のための勉強をしている生徒100%(令和6年度第2回46.6%)	○生徒が学習の成果を実感できるよう小目標を設定して成功体験を積みませる。 ○勉強と将来の結びつきを具体例で示し、学ぶ意味を実感させる。
	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○「自分という存在を大切に思える」肯定的回答70%以上(令和6年度第2回70%) ○「将来の夢や目標をもっている」肯定的回答70%以上(令和6年度第2回70%)	○特別活動(校外スクーリング、レクリエーション大会等)への参加を通じて自己肯定感を高めるとともに社会性の育成を図る。 ○生徒会活動(リーダー研修、文化祭運営等)の活性化を図り、主体的に考え行動する機会を設ける。	B ○「自分という存在を大切に思える」肯定的回答75.9%(令和6年度第1回81.7%) ○「将来の夢や目標をもっている」肯定的回答69.9%(令和6年度第1回30%)	○スクーリング時に直接生徒に働きかけるなど、継続して特別活動に参加するよう促す。	B ○「自分という存在を大切に思える」肯定的回答83.9%(令和6年度第2回70%) ○「将来の夢や目標をもっている」肯定的回答65.8%(令和6年度第2回70%)	○努力や成長を言葉で認め、自己肯定感を高める機会をできるだけ多く作る。
取組項目	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」肯定的回答:40%以上(令和6年度第2回37.1%)	○文化祭の案内、北高通信を町内会に回覧し、文化祭を地域に開放する ○卒業予定者の受講科目「人生設計」で自己理解を深め、専門学校や地元企業について学習する。	A ○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」肯定的回答:68.5%(令和6年度第1回14.5%)	○学校行事や校外スクーリング等を通じて、地域との関わりを学ぶ。	A ○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」肯定的回答81.2%(令和6年度第2回37.1%)	○特別活動等を通じて、社会とのかかわりを実感させる。
	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けられる力の育成	○卒業予定者の受講科目「人生設計」の単位修得者75%以上(令和6年度70%)	○レポート提出、様々な申込(定期考査、特別活動等)を利用し、書類の書き方や提出期限等に関して指導することを通じて情報活用能力の育成を図る。	A ○卒業予定者の受講科目「人生設計」の単位修得者92%(令和6年度中間84%)	○人生設計の授業やレポートを通じて、担任や進路指導部が連携して生徒に働きかける。	A ○「人生設計」の単位修得者84.4%(令和6年度70%)	○ホーム担任、教科担任等のそれぞれの立場から学校全体で単位の修得に向けた指導を行う。

チーム学校	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	★学校の魅力化・特色化 ○進路保障 ○教育相談体制の充実	○魅力化・特色化の具体的目標(指標) ・進路未定者35%以内(令和6年度33.8%) ・生徒情報共有会:年3回以上	○進路指導部とホーム担任等が連携して生徒に働きかけ、進路未定を防ぐ。 ○外部関係機関との連携を行い、必要な支援を行う。	B ○進路未定者26%(令和6年度中間29%) ○生徒情報共有会2回(令和6年度中間2回)	○進路決定や単位修得につながるよう生徒情報を関係者と共有する。	B ○進路未定者46%(令和6年度61%) ○生徒情報共有会3回(令和6年度3回)	○多様な進路情報や体験の機会を提供し、自分の将来像を具体的に描かせる。
	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○倫理観堅持のための具体的目標(指標) ・個人情報に関する郵送は複数人のチェックを行う100% ・不祥事防止のお知らせ機能の確認100% ○校内研修の実施回数4回以上 ○不祥事防止委員会の実施回数6回以上	○個人情報を取扱う場合の確認体制について全体で共有してから作業をする。 ○職朝等でお知らせ機能を確認する。 ○情報共有等を速やかに行う。	B ○個人情報に関する郵送は複数人のチェックを行う100% ○不祥事防止のお知らせ機能の確認100% ○校内研修の実施回数2回 ○不祥事防止委員会の実施回数4回	○今後も継続して確認方法を全体で再確認してから作業を行う。 ○改善点がないか確認する。	B ○個人情報に関する郵送は複数人のチェックを行う100% ○不祥事防止のお知らせ機能の確認100% ○校内研修の実施回数7回 ○不祥事防止委員会の実施回数5回	○ルールの確認を行い、定期的な研修や相互チェック体制を徹底する。
	★長時間勤務の解消 ○勤務時間の管理 ○業務の効率化	○勤務状況一覧表の適正な運用管理 ○長時間勤務者(45時間)0人	○勤務状況一覧表の未入力や長時間勤務者がいないか毎月確認する ○「すぐーる」を生徒への連絡手段の一つとして利用する ○会議等のペーパーレス化	A ○長時間勤務者(45時間)0人(令和6年度中間0人)	○各分掌等で定期的に業務内容を確認し、次年度に向けて提案を行う。	A ○長時間勤務者(45時間)0人(令和6年度0人)	○業務内容の見直しや業務の分担の最適化を図る。